

市では、資産と負債の関
係などの情報を明らかにす
るために、貸借対照表や行
政コスト計算書、純資産変
動計算書、資金収支計算書
の四表の財務書類を作成し
公表しています。
自治体の財政の持続性や
健全性を示す指標として用
いられる基礎的財政収支
(プライマリーバランス)
は、資金収支計算書の差引
残高から借入金や借入金返
済等を差し引いたもので、
平成二十二年度は約十四億
円の赤字となっています。
財務書類は、平成二十二
年度の普通会計決算の状況
をもとに、総務省方式改定
モデルを使用して作成して
います。

平成22年度 普通会計 財務書類の公表

貸借対照表			
資産		負債	
公共資産	1,842億円(136万円)	固定負債	716億円(53万円)
投資等	124億円(9万円)	流動負債	78億円(5万円)
流動資産	70億円(5万円)	合計	794億円(58万円)

純資産	
合計	2,036億円(150万円)
合計	1,242億円(92万円)

貸借対照表は、保有する資産と負債の内訳を示したもので、将来に残す「資産」は約2,036億円、これから負担する「負債」が約794億円、これまで負担してきた「純資産」は1,242億円となっています。

資金収支計算書	
収入	支出
	555億円(40.9万円)
574億円(42.4万円)	差引残高
	19億円(1.5万円)

資金収支計算書は、1年間の現金の流れを示すもので、収入から支出を差し引いた残額の約19億円は、貸借対照表の資産に含まれます。

※表中の()内の数値は市民一人あたりを算出した値です。

純資産変動計算書	
期首残高	1,270億円(93万円)
減少	減少額合計 494億円(36万円)
	純経常行政コスト 492億円(36万円)
	災害復旧費など 2億円(0万円)
増加	増加額合計 466億円(35万円)
	一般財源収入 373億円(28万円)
	補助金等収入 93億円(7万円)
期末残高	1,242億円(92万円)

純資産変動計算書は、1年間の純資産の増減を示すもので、期末残高1,242億円は、貸借対照表の純資産になります。

行政コスト計算書			
経常行政コスト		経常収益	
福祉	160億円(12万円)	使用料・手数料	8億円(0.6万円)
産業振興	75億円(6万円)	分担金等	5億円(0.4万円)
教育	60億円(4万円)	合計	13億円(1.0万円)
生活インフラ	49億円(3万円)	純経常行政コスト	
その他	161億円(12万円)	合計	492億円(36万円)
合計	505億円(37万円)		

行政コスト計算書は、1年間に行政サービスにかけた費用と、それに対する利益収入を示したもので、差額約492億円は「純資産変動計算書」の期首残高から差し引かれます。

企業会計で行う水道事業
と病院事業は、市民の皆さ
んからいただいている水道
料金や診療代金を主な財源
として運営しています。ど
ちらも、暮らしにかかすこ
とのできない事業です。
企業会計は、施設の維持
管理など日常の営業活動に
要する収入と支出を示す
「収益的収支」と、施設の
建設や改良などに要する収
入と支出を示す「資本的収
支」の二つに分かれていま
す。
※各表の資本的収支におけ
る収入額が支出額に対し
不足する場合は、過年度
損益勘定留保資金などで
補てんされます。

公営企業会計の 収入と支出の あらまし

水道事業会計

【収益的収支】		
収入		
	当初予算額	構成比
上水道事業収益	35億7990万円	99.0%
営業収益	34億9956万円	96.8%
営業外収益	8034万円	2.2%
特別利益	0万円	0.0%
簡易水道事業収益	3727万円	1.0%
収入合計	36億1717万円	100.0%

支出		
	当初予算額	構成比
上水道事業費用	34億7360万円	98.2%
営業費用	32億2919万円	91.3%
営業外費用	2億1028万円	5.9%
特別損失	413万円	0.1%
予備費	3000万円	0.9%
簡易水道事業費用	6381万円	1.8%
支出合計	35億3741万円	100.0%

【資本的収支】		
収入		
	当初予算額	構成比
上水道事業資本的収入	7億7927万円	99.0%
企業債	6億7000万円	85.1%
負担金	9927万円	12.6%
出資金	1000万円	1.3%
固定資産売却代金	0万円	0.0%
簡易水道事業資本的収入	797万円	1.0%
収入合計	7億8724万円	100.0%

支出		
	当初予算額	構成比
上水道事業資本的支出	18億2980万円	98.2%
建設改良費	14億9625万円	80.3%
企業債償還金	3億2199万円	17.3%
その他資本的支出	156万円	0.1%
予備費	1000万円	0.5%
簡易水道事業資本的支出	3343万円	1.8%
支出合計	18億6323万円	100.0%

病院事業会計

【収益的収支】		
収入		
	当初予算額	構成比
医業収益	156億9874万円	91.3%
医業外収益	14億3976万円	8.4%
特別利益	5185万円	0.3%
病院事業収益	171億9035万円	100.0%

支出		
	当初予算額	構成比
医業費用	167億351万円	97.5%
医業外費用	1億9753万円	1.2%
特別損失	2億1750万円	1.3%
予備費	1000万円	0.0%
病院事業費用	171億2854万円	100.0%

【資本的収支】		
収入		
	当初予算額	構成比
企業債	45億2400万円	59.9%
他会計出資金	17億995万円	22.6%
他会計負担金	5001万円	0.7%
他会計補助金	1億1246万円	1.5%
県補助金	11億4477万円	15.2%
長期貸付金返還金	0万円	0.0%
その他資本的収入	1028万円	0.1%
資本的収入	75億5147万円	100.0%

支出		
	当初予算額	構成比
建設改良費	71億7582万円	90.0%
企業債償還金	7億7959万円	9.8%
長期貸付金	1200万円	0.1%
予備費	1000万円	0.1%
資本的支出	79億7741万円	100.0%

※数値等は表示単位による端数調整を行っています。

市長コラム 天・地・人

東日本大震災から一年を迎えた三月十一日に「3・11おおさき震災復興フォーラム」を開催しました。「東日本大震災に学ぶ：あの日を忘れない！復興に向けた地域の役割、行政の役割」をテーマに地域代表者によるパネルディスカッション、古川北中学校一、二年生百六十四人による「心ひとつに、夢と希望と決意をもって」の合唱、東北を代表するジャズバンド「安田智彦ビッグバンド」による復興支援コンサートが行われました。

大崎市では、昨年十一月に発表した震災復興計画の柱の一つに「音楽が聞こえる都市(まち)づくり」の推進を掲げています。音楽は私たちに心の安らぎと元気を与え、絆を強め、明日への勇気と希望を与えてくれます。未曾有の災害から復興へと導く音楽の力、効能に期待しました。

歴史を顧みますと、日本が焦土と化した先の大戦から奇跡の復興を果たしたときも音楽が大きな役割を担いました。進駐軍とともに日本に入ってきたジャズは、若者を躍動させました。大崎市松山が生んだ昭和の大御所歌手フランク永井さんも、当初はジャズ歌手としてデビューしています。敗戦に打ちひしがれた当時の日本人に元気を与えた並木路子さんが歌った「リンドロの唄」。その歌の作曲家方城目正先生の先祖が伊達藩の家臣で、先生のお墓が仙台の龍雲院にあり、宮城県は「リンドロの唄発祥の地」とも言われています。

市内には多くの音楽グループが活動しています。本市は毎月十一日を「歌の日」として歌声のある都市づくりを進めることにしました。元気を醸し出す復興につなげる音楽、みんなが育んでいきませんか。

市長 伊藤 康志

